

---

# 短編小説 カーテン

くりこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

短編小説 カーテン

### 【NZコード】

N3149V

### 【作者名】

くりこ

### 【あらすじ】

『カーテン』を題材にしたショート作品です。ほのぼのしていただけたら嬉しいです。  
他サイトにて投稿済み作品です。

相模灘が望める丘に。ささやかだが家を建てた。

開け放つた大窓。明るいリビングへ、潮風がそよぐ。静かな小春日和。私は母と一緒にハーブティーを飲みながら、オーダーメイド・カーテンのカタログをめくつている。

『新築祝いにカーテンを買ってあげるわよ』と言いくに出したのは、母だ。

リビングには落ち着いたゴブラン織りのカーテンを。

将来、子供部屋に予定している洋間には、アイボリーに風船がプリントされたポップな色調のものを選んだが、多分客間へ変更になりそうだ。

私達夫婦のベッドルームには、濃いピンク地に、花柄のものが良いと母が指差す。

「新婚さんなんだもの。雰囲気が出て良いわよ」と勧めるが、私は苦笑した。

「晩婚カップルなのよ？ ゆっくり休めるよつな、シックで飽きの来ない柄がいいわよ」

「そりかしらねえ。『レジヤあでも、なんだか地味じやない？ トムだつて、普段着は割りと派手な服装だし……』

外国人との結婚を大反対していた母と。こんな穏やかな層下がりを、共に過ごせる日がまた来ようとは夢にも思わなかつた。

母のマグカップへ温かなおかわりを注ぐ。夫トムの母親から習つたマフインを勧めつつ、私は話を切り出した。

「母さん。八畳間の和室のカーテンはどうする？ 障子は貼り替えが手間だから入れなかつたの。大窓と出窓のカーテンは、母さんが決めてね。寒がりだから厚みのある生地がいいよ。夜勤明けの時でも寝れるように遮光タイプで……」

キョトンとしてる母へ、私は笑つた。

「……トムがね。母さんをここへ呼びたいって。一緒にママと住みましようつて、彼が言つてくれたからさ……」

「え……」

古びたアパートへ、母一人で住まわすのは忍びないと言い出したのは夫だ。

「これからなら、看護士の母は仕事も通える。

父亡き後。母一人で子一人を懸命に育ててくれた。

ようやく親孝行が出来そうに思えた。私はカタログをスー<sup>ツ</sup>と差し出す。

「私達と同居してね、母さん。これからは私が母さんの面倒見るか  
う……」

目頭を母がぬぐう。しわが増えた目尻を指で押さえながら、母が笑つた。

「ありがとう。まだまだ現役で頑張るけれどね。でも……トムがそう言つてくれるなら、まあ考えてやっても良いよ」

じゃあ、和室はこのピンクのカーテンにするよ……と、母が

言つ。

私達は声をあげて笑つた。

了

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3149v/>

---

短編小説 カーテン

2011年10月8日19時13分発行